

茨城県林業技術センター
中期運営計画実績評価書

(平成 23 年度から平成 27 年度)

平成 28 年 11 月

茨城県林業技術センター
評価委員会

林業技術センター 実績評価

【総合評価】 試験研究機関に期待される役割や目標等に照らし合わせ、質・量の両面において着実に取組を実施していると判断できる。	H23	H24	H25	H26	H27	実績 評価
	A	A	A+	A	A	A

【委員からのコメント】

・限られた予算、人材等の中で、PDCAサイクルを上手に習得され、また、活用できる機関となってきている。その結果として、相談件数、施設利用、外部資金の獲得、外部機関との連携等が年々増加し、明らかに信頼性の高い研究機関として対外的に認知されるようになってきたと判断する。

・短期的なニーズ把握とその課題化、実施については適切な対応ができて一方、林業の低調傾向や震災後の放射性物質被害等で生じている林家県民の鬱積を軽減できるような、夢のある中長期的な林業の課題に取り組むことも林業技術センターとして重要なことである。

・今後は、研究力維持のため、若手研究員の研究能力向上や女性を含めた研究員の確保に努めると共に、森林湖沼環境税で県民に負担をいただいていることも踏まえ、県民生活へ影響する試験研究内容や視察状況等の効果的な広報・情報発信を心がけていただきたい。

i) 県民に対して提供する業務

1) 試験研究(完了課題)

年度	研究課題	H23	H24	H25	H26	H27	実績 評価
H23	1) イヌツゲの枝枯れ原因と防除法に関する研究	A					A
	2) 人工林伐採地の更新実態の解明と管理方法に関する研究	A					
	3) 春に発生する野生マイタケの安定栽培技術の開発	A					
	4) マツタケ接種源開発試験研究事業	A					
	5) マツタケ菌根苗の現地定着促進技術の開発	B					
H24	1) 花粉の少ないヒノキミニチュア採種園管理技術の開発		A				
	2) 海岸クロマツ林への広葉樹導入技術に関する研究		A				
H25	1) 間伐の実施が林床植生および表層土壌の流出に与える効果に関する研究			A			
H26	1) カシノナガキクイムシの生息状況と被害防止に関する調査				A		
	2) 人工林伐採跡地の森林復旧の手法に関する研究				A		
	3) 原木マイタケの安定生産技術に関する研究				A		
	4) 植木鉢を用いたマツタケ菌根苗順化促進技術の開発				A		
	5) 複数システムを利用したマツタケ菌根苗作出技術の開発				A		
H27	1) マルチキャビティコンテナ苗を用いた苗木生産技術の開発					A	

【委員からのコメント】

・ニーズ把握、課題化、成果の活用が適切に行われている。とりわけ、海岸林の再生に関する研究は、津波被害の軽減に役立つ等、公的機関が率先して対応すべき技術開発であり、その成果が事業で活用されているなど適切な対応ができています。

・また、当センターの独創的かつ先駆的な研究課題であるマツタケの人工栽培については、これまでの取組から、他機関との連携強化、外部資金の獲得の増大のような「見える」形に繋がってきている。

・一方、第1期中期運営計画期間中に完了した試験研究課題は、半数以上がキノコ類(マツタケ含む)の課題であり、単純に数だけ見るとキノコ類の研究に偏っているように見える。「林業」の研究機関を看板に掲げるのであれば、長期間かつ継続性が必要とされる森林(人工林、海岸林、里山林)を対象とした林業課題の課題化比率をもう少し高くすることが県民、とりわけ林家にとって望ましいと思われる。

・なお、研究成果の外的評価が上げれば上がるほど、その成果の公表では説明責任が増加せざるを得ない。このため、研究計画や成果報告では、総計解析等を基本的に行い、学術的な評価にも十分に耐えられるような論旨展開や記述に心がけ、訓練することが必要と考える。

評価項目	H23	H24	H25	H26	H27	実績 評価
i) 県民に対して提供する業務						
2) 林業相談	A	AA	A	AA	A	A
3) 広報・情報発信	A	AA	AA	AA	A	A
4) 施設利用	A	A	A	A	A	A
5) 知的財産権の取得・活用	B	A	A	A	A	A
6) 外部人材育成	A	A	A	A	A	A
7) 視察の受け入れ	A	A	A	AA	A	A
8) 研究と普及の一体化	A	A	A	A	A	A
9) 教育活動への取り組み	A	A	A	A	A	A
ii) 業務の質的向上, 効率化のために実施する方策						
1) 全体マネジメント	A	A	A	A	A	A
2) 他機関との連携	A	A	A	A	A	A
3) 外部資金の獲得方針	A	B	AA	AA	AA	AA
4) 県民ニーズの把握方法	A	A	A	A	A	A
5) 内部人材育成	A	A	A	A	A	A